

2年ぶりの県外視察は福井県で実施 鯖江市のモノづくりと能登地震の災害状況を知る！

川崎地域連合は6月19日（金）、20日（土）福井県において県外視察を実施しました。役員など18名が参加しました。

19日（金）は鯖江市にあるメガネ工場『マコト眼鏡（がんきょう）』を視察しました。



マコト眼鏡の玄関前

約120年前に福井県で始まった眼鏡産業は鯖江市で発展し、現在は500社を数える産地となり、日本の眼鏡市場の95%以上、世界でも20%のシェアを誇る一大産業へと成長しました。

その中でも「マコト眼鏡」は老舗工場として、品質へのこだわりや職人育成の姿勢など、多くの学びが得られる視察となりました。



20日（土）は、丹南自治研センター（※1）との学習会を開催しました。

第一部では、丹南自治研センター理事であり、福井丹南地域協議会の横井直人議長代行より、「横井さんのまちづくり3.0」をテーマに、地域を盛り上げる多様な取り組みについてご講演いただきました。特に、子

ども食堂の支援や不登校児童への関わりなど、市民と市職員が対等な立場で協働するための知恵と工夫が随所に盛り込まれた内容で、活動で参考となる講演でした。



横井議長代行

第2部では、福井大学の酒井明子特命教授より、能登半島地震の現状として「石川県珠洲市の現状について」と題し、実際に被災地に入り活動されている立場から、その実情についてご講演いただきました。



酒井特命教授

能登地震直後に入った珠洲市の悲惨な状況、避難所（トイレ・食事・プライバシー）の課題、2次避難所への移送、仮設住宅やコミュニティの問題など、日本が大地震を経験してきたにもかかわらず、法的整備が依然として遅れている現状が語られました。

モノづくりの現場や他地協との交流が出来た有意義な2日間の視察を終えました。

（※1）福井県の丹南（たんなん）市民自治研究センターは越前市、鯖江市、越前町、南越前市、池田町の住民、自治体職員、議員、研究者が、地域の課題や暮らし、まちづくり、平和、福祉などについて、気軽に集い語り合い、学び合う「地域の学び舎」のような市民活動団体のこと。